

脳神経外科入局を考える皆さんへ

病棟医 1年 豊田茉莉子・百武佑理

『脳神経外科』といえば、やりがいのある一方で忙しくてプライベートもなく大変、そんなイメージではないでしょうか。私達も、医学生時代の実習で憧れを抱いたものの、いざ実際に入局するには勇気が必要でした。研修医としてローテーションした際には、幅広い守備範囲、手術の奥深さ、学問的な可能性を改めて実感し、ますます悩んだ記憶があります。今回、入局の背中を押してくれた、そして入局した今伝えたい、ここ北里大学病 脳神経外科の良いところをお伝えさせていただきます。

まず初めに、雰囲気について、質実剛健かつアットホームな医局で、皆で協力しながら熱意と誠意をもって日々の治療にあたっています。朝のカンファレンスでは必ず全員が集まって、患者さんごとに手術方法や治療方針について議論し、問題点があれば原因と改善方法を皆で考えます。経験を積んだ先生方に不十分な点をきちんと指摘してもらえ、そして貴重なアドバイスをたくさんもらえる、安心して日々成長できる環境です。

また、ここでは各分野のプロから近い距離で学ぶことができます。1年目の4月から助手として手術に入らせてもらい、受持医として主治医の指導のもと診療を行いながら、手術や周術期管理について学びます。豊富な手術症例があるため幅広い分野をまんべんなく経験でき、サブスペシャリティを決めるにあたって最も最適です。

最後に、一番の決定打であり強調したいポイントは、『人』です。医局の雰囲気とも重なりませんが、本当に温かい先生が揃っています。病棟医の先生方は、いつでも気軽に相談にのってくれるありがたい存在です。隈部教授をはじめとした主治医の先生方は、確かな知識・技術と強い責任感を持つ、心から尊敬する存在です。そして忙しい中でも快く若手に時間を割き、多くを教え、経験させてくれます。それは臨床に限らず、研究や論文についても同様です。そんな感謝の尽きない、頭の上がらない先生達と、毎日一緒にコーヒーを飲んだり、(一部は筋トレをしたり)、垣根のない雰囲気で居心地良く過ごさせて頂いています。

以上のように、人と環境に恵まれ、私達は日々充実した脳外科ライフを送っています。言葉ではうまく伝えきれない部分も多くありますので、少しでも興味のある方は是非一度来て雰囲気を味わっていただければ幸いです。



豊田・百武